

うにも思はれますの、ですけれど、どうして癒らふとするのでせう——何のた
めに癒らふとするのでせう……

一月二十八日

今朝は私大きな物音で早く眼をさました。

私の部屋に寝て居るジュリイが食堂へ行きました。誰れですか、男の人の聲が
きこえて何んだかジュリイと云ひ争つて居ました。間もなくジュリイは泣き乍
歸つて来ました。

執達吏が財産差押へのためにやつて来たのです。私はジュリイにお役人のなさ
るまゝにお任せするように云ひました。スルト執達吏は帽子を被つたまゝ私の
部屋へ入つて来て抽斗を抜いて目録を作りながら、目の前に今死にかゝつてゐ

る女が寢床に臥つて居るのも知らん顔でした。でもね、歸へりがけに九日間に
抗告する事が出来ると教へて行きましたつけ。そして番人を一人残して行きま
した。私はどうなるでせう。そのお蔭で私の病氣はますます悪くなりました
ブルウダンスはあなたのお父様にお友達に話して多少のお金を拜借したらと申
しました。私、それ許りは許りしませんでした。

一月十三日

今朝あなたからの手紙がつかまりました。私はそれを毎日／＼どんなに待つてゐ
たでせう。私の返事が間に合つてあなたのお手に届くでせうか。貴方は本當に
今一度私の傍へかへつて来て下さるでせうか。

今日の嬉れしさで私はこの六週間の苦るしみを何もかもすつかり忘れて仕舞ひ

ました。でも悲しうござりますの、この悲しい氣持であなたへの御返事をかきました。

多分私、死なないであるやうにも思ひますの。あなたが歸つて来て下さつても一度春にあひ、貴方が今まで通り愛して居て下さつて、元のやうに一緒に世帯を持つことが出来さうにも思はれますの。

私狂人ね——この手紙をかくペンさへやつと持つて居る位なんですもの。そんなことは途方もない夢ですね。

何はともあれ、中心から貴方を愛して居ります昔樂しかつた事を思ひ出したり貴方が歸つて来て今夜私の傍に居て下さるといふボンヤリした望みが無かつたら、私はもうとつくの昔に死んでしまつてゐたでせう。

二月四日

又悪い陽氣になりました。誰一人私を見舞つてくれる人もありません。ジュリ——は都合が出来ただけ傍に居つてくれます。ブルウンプはもう以前のやうにお金をやらないものですから、用事をこしらへて逃げやうとしてゐます。

私らう死ぬんです。どの醫者様もいんなことを云つて力をつけて下さいますけれど四人も五人もお醫者様にかゝつて居ることが私の病氣の悪い證據です。私こんなだと知つたら、あなたのお父様のお言葉なんか肯くんじやあなかつたご後悔して居ます。一年しか生きて居られないと分つて居たら、あなたと御一緒に居たら望みを絶つたりなさるんじやありませんでした。それにあなたと一緒に居たら私、こんなに早くは死にませんでしたでせうに。

何事も天命です。

二月五日

あゝ歸つて来て下さい——歸つて来て下さい。アルマン様、ひどく苦しいので
す。今にも死にさうです昨日非常に心細くて夕方は前の晩のやうに、長いかと
思ふと恐くなつてどこか他へ出掛けて行きたいと思つた程です。
大變な熱ですけれど着物を着かへて馬車でヴオードヴィル劇場へ出掛けました
ジュリーが頬紅を塗つて呉れました。それを塗らなければ私はまるで死人だつ
たでせう。私初めて貴方と逢引のお約束をしたあのボックスへ入りました。
私は息も絶え〜に家に連れて歸らせられました。終夜咳が出て血を吐きました
た。今日はもう口を利くことも出来ません。手を動かすことも出来ません。あ

〜私はもう死ぬんです。勿論死は覺悟して居ますけれど、それでもねえ、今
のこの苦しみよりもつと〜ひどい苦しみを見なければならぬかと思ふ
ともう辛抱が出来ません、若しも……

……これから先は讀むことが不可であつた……

二月十八日

アルマン様——マルゲリット様はお芝居にお出かけになりました日から御容態
が引つゞき悪くなりました。
お聲が出なくなり、手足も動かないと云ふ有様でございました。
御苦痛の劇しいことは目も當てられませぬ……そらいふ経験のない私は、唯も
う氣ばかり揉んで心配して居ります。

あなたさへ此方に居て下さいましたなら、どんなに嬉れしうございませう御病人様はいつも熱に浮かされて居らつしやいまして、一言でもおつしやる時はいつでも貴方のお名前をお呼びになります。

お醫者は、もう長くはおもちになるまいとおつしやいます。御病人様がこんなひどくお悪くなりましてから、老公爵様もお見えになりません。御病人の苦しみを見るに忍びないとお醫者様におつしやいましたそうです。

K伯爵様は借金にお困りなさいまして己むなく倫敦へおかへりになりました。お立ちになる時私達へお金を置いて行つて下さいました。あの方は出来るだけのことをして下さいました。

ですが又新に財産を差押へられまして債権者は品物を競賣にするつもりです。マルグリット様のお死くなりになるばかりを待つてゐるのでございます。

財産差押へを止して貰ひ度いと存じまして私の持つてゐますお金を役立てたいと思ひましたけれど執達史の申しますにはそんな事をして無駄だ、他にまだ幾つも差押へをされる口があるとのことでした。

どうせお死くなりになる人なら何もかも棄て、おしまひになる方がいゝでせう。ついで、マルグリット様をおいとしいとも思はずなづねもしない御親類に品物を残すより、その方がいゝでせう。マルグリット様がどんな惨めな御様子でもつて瀕死の床にお苦しみ遊ばすか、あなたにはとても御想像もつきませぬ。昨日も私達は一文無しで過しました。皿、寶石、肩掛などみんな質屋へ入れてゐるんです。他のものも皆な賣り拂はなければ差押へを食ふと云ふ始末なのです。それにマルグリット様は今でもお氣が確かで家の中の様子をよく御存じですか。お休の苦みと同様に心もお苦ししいのです。痩せ細つた蒼白いお顔に涙を

流して居らつしやいます。その頬の瘦せて居らつしやる事と言つたら、あなた
 があれ程お氣に入つてゐた顔といふ思ひになれないでせう。
 かねくマルゲット様は御自身であなたへ手紙がかけなくなつたらばこの私に
 代筆するやうにとのお頼みでしたからマルゲット様の御覽遊ばして居る眼の前
 でこの手紙を認めました。私の方を見詰めてゐらつしやいますけれど、もう私
 を御覽になるお力もない様子です。死が近づいて居るので、眼がもう、うるん
 で居るのです。ですが、につこり微笑んでいらつしやいます。屹度マルゲリッ
 ト様のお心はあなたと御一緒に居らつしやるのに相違ありません。
 お部屋の戸が開く毎にマルゲリッソ様のお眼が輝きますの、あなたがおかへり
 遊ばしたのだと思ひになるのでございませう。ですが、それは他人だと知れ
 ますと、苦るしさうな表情を遊ばして冷たい汗が惨んで頬は紫色になりま

す。

二月二十五日

午後五時

萬事は終りました。

今日の午後二時マルゲリッソ様は終におかくれになりました。その時のお聲の
 苦るしさつたら宗旨の事でお處罪になつた僧侶様もあれ程お苦しみにならな
 かつたらうと思はれる位でした。神様のお傍へ上り行く御自分の生命を掴まふ
 とでもさるやうに二三度寢臺の上にお座はりになりました。そして二三度あな
 たのお名前をお呼びになりましたが、それつきりものをもおつしやらず力がぬ
 けて寢床の上にお倒れになりました。二粒の涙が静かに眼から流れ出てそれ
 切り息をお引取りになりました。

私はお傍に近づいてマルゲリット様のお名を呼んで見ましたけれど、御返事が
 ございせんから、静かにお目を閉ぢ申してお縷にキスを致しました。
 お氣の毒なおいとしいマルゲリット様、せめて私が清い女でございましたなら
 妾の接吻でマルゲリット様を神様の前へお勧めする事が出来たでせうに。
 それから生前御命令通り妾は御召物をお着せ申して僧侶様を呼びにサン、ロ
 ーシユ寺へ参り一時間許神前にお祈り致しました。マルゲリット様の御冥福の
 ためにお金を貧乏人に施してやりました。

—丁—

昭和三年十二月一日印刷
 昭和三年十二月十五日發行

定價金八拾錢

編輯部代表者
 高山佐武郎

不許複製
 發行者
 東京市淺草區瓦町廿八番地
 山崎曉三郎

クロウヴァー
 のたより
 印刷者
 東京市神田區小川町一番地
 田中信之

發行所

東京市淺草區瓦町廿八番地
 電話東京一〇七三二番
 電話淺草四一三二番

國華堂

關西特約店 大阪西區
 東北特約店 函北海濱市道
 大阪堂
 太盛堂

所刷印堂華國所刷

終

